

限りある人生をどう生きるか

士道

士農工商

コピキタス
超情報化社会
遍くモノは情報!

自己喪失
思考停止
精神荒廃

元々通っていた
モノは何だったか?

イ 士

口

志 師 子
使 士 司
吏 仕 氏

不惑

三十にして立つ
四十にして惑わず

《士の背景》

不

不平
不満
不足
不具
不仲
不調
不備
不通
不可
不幸
不便
不信
不審
不振



士



反骨の士魂

■士道と武士道の違い!

「武士道とは死ぬことと見つけたり」(葉隠) 佐賀鍋島藩

「死をころろにあてるべし」(士道) 山鹿素行

熊野・十津川郷士

尊皇攘夷の志を高らかに討幕の兵を挙げた天誅組は、1863年) 8月20日に五條桜井寺より天辻峠へと隊を移し本陣として、幕府軍との壮絶な戦いを繰り広げた。明治維新に動く時代の先駆者となりながらも、はかなき黎明の露と散った若き勤皇の志士。

玉置山
○に十字

流

陰極

陽極

一

十

それは手に触れる姿を持たず
道徳的雰囲気香りを放ち
今も私達を引きつけてやまない
存在を気付かせる (新渡戸稲造)

「義」正義・正しい道。
「勇」正しいことをする。
「仁」悪に情けをかける。
「礼」低くなること。

日本精神文化の結晶
士魂

日本人のアイデンティティの核心、

十と一とは、
十を推して一に合すること。
一に推して十に合すること。
即ち一貫の義で、能く之を為すものを
士といふひ

「稽古とは、一より習ひ十を知り
十よりかえるもとのその一」(利休百首)

士道不覚悟

寛容による平和

志や士道そして「士魂」は頑迷なる「こだわり」ではなく
国際化の中で日本人が日本人らしく生きる心の中心であり、
自然に添ったその歩みは、自らの成長の原動力であり、
自らの誇りや自信・志の淵源である。